

思いやり

ダスキンは米国のニューオリンズで誕生した「カフェデュモンド」というカフェ事業を日本で行っており、先日、カフェデュモンドの社長に会うため渡米しました。日本から現地に行くまでの天候が悪くなったため出発が8時間ほど遅れ、ニューオリンズの到着が深夜の12時になりました。

先方の社長とは空港で待ち合わせしていたのですが、深夜に着くことから日本を出発する際に連絡しお断りしました。飛行機が飛び立ち夜中の12時に到着。荷物を受け取ってゲート付近で、「ミスター・ヤママラ」と聞こえ振り向くとカフェデュモンドの社長が出迎えてくれました。

予定より8時間も遅れ、まして夜中の12時なのにわざわざ迎えに来ていただいたことに感激し、また、軽食も用意してくださり長旅の疲れも吹っ飛びました。

人に対して優しくできることが人間としての価値だと思いますが、頭で理解していても日常生活の中で、なかなか行動に移せないものです。言葉がなくても行動に表れると気持ちが相手に伝わり感動が生まれます。

仕事を通じての関係であつても、“人と人”との信頼関係で結ばれることが大切で、常に相手のことを思いやり自分を二の次にして行動することを教えていただきました。

株式会社ダスキン 社長

山村輝治

読む人の心を願って作る

喜びの タネまき 新聞

no.544



写真・市谷 健 「つぎの届く?」「やってみる!」

新緑につつまれて川を下っていく。
時間の流れがかわって
あつきな気持ちにさせてくれます。



「川を旅する」

友人が集まって、多摩川で進水式を行った。各々が立派な船名を発表。大げさなネーミングにみんな大笑いだ。たしかに船というには、オーバーな代物。一般的にはカヤックと言う、小さなボートだけど、気分は船長だ。

カヤックは全部で5艇。川の旅に、ぼくたちが最初に選んだのは鮎釣りで知られる栃木県的那珂川。上流は日光を流れる関東随一の清流だ。川を下っていると景色の見える方がとても新鮮だった。水鳥は慌てる様子もなく、ぼくたちの船と戯れている。岸辺は春の花で埋め尽くされ、おだやかな流れに身を任せてまどろんだ。

時折現れる早瀬は川下りの醍醐味だ。下手をすると、あつという間にひっくりかえって水の中。これを「チン」というのだが、しっかりとライフジャケットを身につけているので、プカプカ浮かんで「いやあ、気持ちいいぞー」などと強がりを言いつて笑いが絶えない。川と仲良くなるには、この洗礼が一番だ。



絵と文
中村みつを

イラストレーター、画家。
絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ『一步二歩山歩』に挿絵を描き、新聞連載の最多記録を更新中。日本山岳会会員。著書に『のんびり山に陽はのぼる』（山と溪谷社）、『お江戸超低山さんぽ』（書肆侃侃房）、『森のくらし』（リヨン社）など。

岐阜県の名川、長良川にも訪れた。ここは言わずと知れた急流。練習の成果を試そうと遠征した。艇には河原でキャンプするためのテントや食料などを積み込んだ。川は波のない静水があるかと思えば、とどろく早瀬もあった。笑顔と真剣な顔を交えながら、蛇行する川を行く。見上げると川沿いの国道では、延々と渋滞した車が退屈そうにしている。「川はいいぞー!」ぼくたちは氣勢を上げて下った。

をかけた。「東京から」と返すと、「遠くから、よく来たね」と、手招きした。川を下ると人との距離が縮まる。「川旅はいいね」みんな、のびのびとした気持ちになっていた。地元名物のお相伴にあずかり、「下は流れが強い。気をつけなよ」おじいさんに言われ再出発。すぐに難所が現れた。ちょっとした滝だ。おまけに支流と合わさり渦を巻いている。1列になつて突入する。気が付くと全員「チン」。渋滞の国道は大喜び。上がった河原が今日のお宿になった。

スプーン1本の裏ワザ

「バナナのクリームブリュレ」

クレームブリュレはフランス語で焦がしたブディングの意味。その名のとおり、表面のハリカリ感が特徴です。今回はグリルやバーナーは使わずに、スプーン1本で焦げ目をつけます。中はバナナの風味豊かでしっとりの本格派。是非一度おためしを!

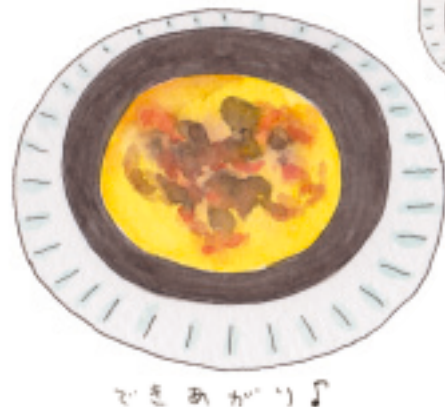
お料理研究家 こいけりえ

◎作り方(6個分)
●生地作り
卵5個を用意する。今回は卵黄のみ使用します。ボウルにサワークリーム30gを入れ、そこへ卵黄1個分をゴムべらで混ぜながら入れていく。混ぜたら、さらに卵黄1個分を加え、しっかりと混ぜ合わせる。それを全部で卵5個分、繰り返す。

卵黄を全て入れて混ぜ合わせた中に、グラニュー糖50gを入れ、泡だて器ですり混ぜる。
牛乳250mlは沸騰直前まで温めておき、生地の中に少しずつ加えてよく混ぜ合わせる。こし器を使って生地をなめらかに仕上げる。

最後に生クリーム200mlとバニラエッセンス1〜2滴を加えて混ぜ合わせ、生地は完成。

●オーブンで焼く
耐熱容器に薄くバターを塗り、オーブンは160℃に予熱しておく。
バナナ2本は、皮をむいて1cm幅に切っておく。
耐熱容器の底に輪切りのバナナを並べ、上から生地を流し入れる。あれば、干しぶどうのラム酒漬けを3〜4粒入れても



美味しい。水を張った天板に容器を並べ、160℃に予熱したオーブンで、30分蒸し焼きにする。あら熱を取ったら冷蔵庫で約3時間冷やす。

●焦げ目をつける
食べる直前に、上からグラニュー糖各小さじ1を振りかける。そこへ火であぶって熱くなった大きめのスプーンの背を押つけて焼き色をつけると表面がカリツとなります。スプーンは黒く変色するので、古い金属製を使用して、やけどに気を付けてください。

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。

将軍と副将軍。
カブトおもしろい〜。
岡山市 高岩尚美

箱からパァッ
横浜市 真島暁子

趣味は読書です!
東京都町田市 石王好己

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております!
(詳細は7ページ)

なつかしい家族の情景にこめた 陽だまりの想い

子育て中に人形を独学で作り始めた荒木さん。
昭和の農民の暮らしを人形で表現した渡辺うめさん（106歳）と出会って以来
子供の頃の思い出の情景をテーマに作品を創り
感動をよんでいます。



人形作家
荒木富佐子さん（66）
兵庫県神戸市

年に数点ずつ心をこめて創る作品。人形たちの居る家族の情景は、村に初めて入ったテレビ、嫁入り、アイスクャンデー売り：個展は昭和の雰囲気を楽しむ人でいっぱいになる。
「なつかしい！アイスは5円だったんですよ」



「キャンデー売りのおじさん」

「そう、笛の音が聞こえるとうれしいの」と個展で荒木さんと楽しそうに話し込んだ女性は、突然、「実家の家族は亡くなり、子供時代からあつという間に何十年です。母のいた頃を思い出して」はらはらと涙をこぼした。荒木さんは、

「大丈夫？…」と気遣った。人形たちは荒木さんと同じような心を持っていて、人形だけれど温かい生き生きとした眼差し



村で初めてのテレビに見入る。ご近所さんは玄関に。子どもは夢中だ。

をしている。

小さい頃は仲良しと、縁側で人形の着せ替えをして遊んだ。創作和紙人形を始めたのは結婚してから。40歳で、人形作家の渡辺うめさんと出会う。現実

と笑ってくださった。忘れられない嬉しさだった。「創作のテーマはわたしを育ててくれた祖父母、父母、弟妹、そして故郷の山や川」おじいちゃんを作りたいと思った時は、何枚も写真を撮り、後ろ姿や髪の毛も研究した。40年ほどの間に作品は変化して孫も登場するようになったが、ふと気づくと、家族の情景の中にいつも子供の自分と妹がいる。なつかしいご近所さんも。



「伸子張り」

その後、ちぎり絵作家の中野はるさんの勧めで全国手工芸コンクールで文部大臣奨励賞受賞。夢かと驚いたが、こつこつと誰にも師事しないで、「創りたいものだけを手さぐりで創る」道を貫いた。

「人形が大好き。自分も癒されます。自身が愛おしく思う人たちを作り続けてきたんです」



故郷、播州の農家には今も90歳を過ぎた父上が健在。小さい頃遊んだ縁側を見ながら作業する荒



集者、版画家、『昭和の情景』を観にきてくれる方々が「ああ、この通りでしたよ！」と昔を思い出して涙する。その深い共感に満ちた言葉が、道案内のない歩みを決めてきたそうだ。

木さんを、妹さんが動画に撮って編集し、作品展で見せている。ご主人も変わらずに応援。そういう家族なのだ。

高校の授業に呼ばれて、昭和30年代の話をした時は、「物は少ないけど工夫のある暮らし」

荒木さんの人形は、そこから光が射してくるように明るい。言葉にならない陽だまりの想いがこもっていて。



「もういくつ寝ると」



「嫁取り」

「家族や近所の人が集まって温かい」と口々に感想を寄せてくれた。ある施設では、おばあちゃん達の昔話に花が咲き、隅っこに居られたお年寄りがフワッ





うぐいす

札幌市 阿部てる子

私は、短大を卒業したら母の営む小さな旅館を手伝うことを条件に、進学を許された。卒業の時期、先生に相談すると「帰る前に勉強する」といいと旅館を紹介してくれた。格式の高い有名な老舗旅館で、館内には「うぐいすの間」という表示の大女将の部屋があった。大女将は大変厳しい人で、社員を大声で叱る。なによりも、うぐいすとは、すごい比喩だと感心した。

私はうぐいすの間で、お客さまに渡すおつりの紙幣を選別し、アイロンをかけ、新札に変える仕事をおおせつかった。大女将は外出するとき、部屋の入り口に履き物をそろえて在室を装い、縁側から出入りした。「私が留守だとわかると、社員の気が緩むから」と…。

半年の修業期間に多くのことを学んだ。今でも、うぐいすの季節になると、「ケキヨケキヨ」と大女将の声が聞こえてくるようです。

—— 新人の頃を懐かしく思い出します。



リフォーム

三重県明和町 岡田文子

大正生まれの母は、父がせつせと働いたお金で、私達三姉妹のために一通りの着物を揃えてくれました。今とはちがい、豊かではなかった頃なので、決して良いものではありませんでしたが、気持ちのこもったものでした。

時代も変わり、せっかくの着物も、たんすの肥やし。捨てることもできずにいました。

そんなある日、姉が思い切って自分の着物をほどき、見事なシヨルダーバッグに変身させました。それ以来、私達は着物を持ち寄り、服やカバン、パッチワークなど色々なリフォームを楽しみながら、両親を偲んでいます。

私は今日も、ジープンに着物のシヨルダーバッグを斜め掛けて走り回っています。「お父さんお母さんも喜んでくれるかな」と思いながら。

—— かたちが変わっても大切なモノ…。



孫娘

山口県平生町 近藤トモ子

孫娘から小包が届いた。中にはハッ橋の煎餅。早速電話をかけると、京都旅行のお土産だと言う。賞味期限の都合で煎餅にしたと、女の子らしい心遣いが有難い。それに私は80歳を過ぎても歯が丈夫で、固いものが大好き。

孫娘は男ばかりの我が家に、初めて生まれた女の子。私は嬉しくて嬉しくて、盆暮れに帰省して来るたびに、おんぶや抱っこをしていたから、私に一番なついてくれた。

そんな幼かった孫娘も今では大学2年生。身長も162cmと大きく成長した。生まれたばかりのときに父親が、「平生のおばあちゃんに似たから美人になれん」と言ったとか…。しかし、最近届いた成人式の写真を見るとまんざらでもない。昔の人のたとえに、「鬼も十八番茶も出花」とはよく言ったもんだ。

—— おばあちゃん、大好き！



あしからず君

青森市 小笠原豊子

「もしもし、バア元気に起きた？ ぼく保育園に行くので、じゃあ、あしからず」ガチャン。

5歳になる孫からの朝の電話だ。…あしからずとは、いつ覚えたのかしら？

「バア元気？ ぼく掃除機かけないといけないので、あしからず」ガチャン。日曜日の電話。

「お部屋きれいになった？」次の日に聞くと、「ママがね、四角いお部屋を丸くお掃除してくれたから、花丸あげるって！」「！」

孫からの電話は、気持ちが落ち込んだ時の、一番の薬。思わず笑わしてくれました。

「キミは男だ、ママやバアをよろしくな」昨秋、他県に単身赴任する息子が孫に言ったそうです。その言葉を精一杯守っている、けなげな孫に、「あしからず君」とニックネームをつけて、応援をしながら、元気ももらっています。

—— 元気のモトですね。



ペンフレンド

群馬県高崎市 茂木由賀里

40年前になります。当時、入学したばかりの小学校が創立百周年をむかえて、記念に全校生徒で手紙をつけた風船を飛ばしました。いっせいに大空に飛んで行った、色とりどりの風船を見上げた時の美しい瞬間を、今でもはつきりと覚えています。

私の風船を拾ってくださった当時41歳のおじさんは、今は81歳のおじちゃんになられました。今でも、当時拾ったその風船と手紙を大事に取っておいてくださっています。数年前に、そのコピーを送っていただいた時には、とても感動しました。気持ちの温かい方で、今でも文通を通じて、私とつながっていてくださることを感謝し、幸せに思っています。

—— 風がつないだ友情ですね。



発見

新潟県長岡市 石田理英子

4月から、自然にかこまれた幼稚園に通い始めた3歳の息子。毎日、何かしらの発見や楽しい出来事があるようです。

先日、幼稚園に送り届けた頃にちょうど雨が降り始めました。すると息子は、ほおの木の葉っぱをとって「マちゃん、かさだよ！」と私に渡してくれました。帰りの私を気遣ってくれたのかなと、思わず笑顔になりました。

多くの木々や緑、沢山の虫や動物などの生き物にも触れ合うことが出来るので、自然の素晴らしさを毎日肌で感じているようです。先生やスタッフの方たちに助けてもらいながら、伸び伸びと成長してほしいと願うとともに、この環境に感謝をしています。

—— 心も体もおっきな子になあれ！

ケンカもよくする、仲良し兄妹！



長野県小諸市 西松喜美子

あなたのお便りや写真をお寄せください

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先

〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

no.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

4-5ページの「陽だまりの想い」について

荒木富佐子さんのホームページ
<http://web.kcni.ne.jp/washidoll/>
個展情報はホームページに掲載されています。
なお、荒木さんの人形は非売品です。

お気の毒な人

「ケチケチ言うな！」という人に限って、自分のお金はビター文も出したがらないケチンボがいるものです。

「あの人はケチンボだ。ムリもない、お金がいる事情があるんだろう。私が出してやろう！」

と、他の人の出し渋るお金でも、自分が出せるようになる人が、本当に、ケチでない人です。

ただ、お金のことはかり、ケチケチ言う人は、もっとお金より大事なものが、あるのを知らない、お気の毒な人なのです。

鈴木清一

愛の輪からのコラム “言葉”たち

アジアの若者たちに、人生を切り拓く経験をさせてあげたい。

そう語るのは、高知県でホストファミリーとして愛の輪アジア研修生を受け入れている樋口恵子さん。彼らが最初に覚える日本語は「大丈夫！」だそうで、自立を意識するあまり一人で買い物に行き、ハンドクリームと間違えて子ども用歯磨き粉を買ってきた研修生も。樋口さんは失敗も含めて彼らを温かく見守り、価値ある経験ができるよう活動されています。

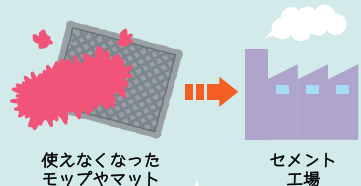


このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎ 06-6821-5270 HP <http://www.ainowa.jp/>

愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。

ダスキンの工場見学では
汚れたモップやマットを
キレイにしてモノを大切にする
エコを学べます!

ダスキンは全国に洗浄工場があり、工場見学を行っています。汚れたモップやマットが、大型洗濯機や乾燥機により、再び商品として生まれ変わる様子をご覧ください。モノを大切にしたり、環境に配慮する心を育んでいます。



使えなくなったら、セメント工場でセメントを作る時の**燃料**の一部に!



工場見学の詳細 <http://www.duskin.co.jp/torikumi/factory/>

あなたの**声**が原点です。
私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキんが大切にしたいのは、あなたの声——。
ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

お客様の声はインターネットにて承っております。

ダスキんお客様の声

検索

www.duskin.jp/voice

今号のキーワード

こ う じ ょ う

ハガキに書いてご応募ください!



「すっきりデイリーセット」を
プレゼント!

抽選で
30
名様に

- トウモロコシ繊維ボディタール ロング(ブルー)
- リラックスアロマ入浴剤 ペパーミント&ラバンジン(の香り)
- うるおいボディソープ ペパーミント&ラバンジン(の香り)
- 薬用ハンドソープ 森林の香り



下記の要領でご応募ください。

●ハガキに

- ①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名
 - ⑤年齢 ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキん店名
 - ⑨この新聞内で好きなコーナー
- をご記入の上、下記であて先までお送りください。

●応募専用のあて先 ※郵便番号とあて先のみで届きます。

〒163-0265

住所は不要です。

(株)ダスキん「喜びのタネまき新聞no.544」プレゼント係

- 締め切り 平成26年7月11日(金)当日消印有効
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成26年7月下旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。
※ダスキん関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキんの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキん「喜びのタネまき新聞」プレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

株式会社 **ダスキん**

発行：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキんコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキんコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp

●この新聞をお届けしているのは